

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:3

乳腺への放射線治療での放射線性皮膚炎に対する予防的保湿の効果

乳腺への放射線治療での放射線性皮膚炎に対する予防的保湿の効果

光学医療診療部・放射線部ナースステーション

○平千亜紀 松岡あさみ 小野美帆 井上紗貴

キーワード：放射線性皮膚炎、乳房温存術後、予防的保湿

【目的】乳房温存術後の放射線治療は、放射線性皮膚炎の発生リスクが高く、苦痛やQOLの低下につながるため、重症化を防ぐ予防的ケアが重要である。放射線性皮膚炎の予防には、清潔の保持と皮膚への刺激を避けることが重要であり、保湿を目的とした外用剤の使用に関しては、徐々に研究が進んできているが、保湿を推奨するエビデンスは少ない。A病院では、2021年1月より乳房温存術後の放射線治療を受ける患者の予防的保湿を実施することとなった。そこで、今回、予防的保湿導入後と過去の症例との症状出現状況を比較することで、予防的保湿の効果を検討し、今後のケアの向上につなげていきたいと考える。

【方法】1) 対象：A病院で乳房温存術後の放射線治療を受けた患者（寡分割照射を除く）。保湿群：治療開始日2021年1月1日～同4月30日、対照群：治療開始日2019年12月1日～2020年4月30日

2) 方法：診療録・看護記録から、保湿群と対照群のデータを抽出し比較する。

3) 調査項目：年齢・放射線治療に関する情報・放射線性皮膚炎に関する症状の観察

【倫理的配慮】本研究は研究者の所属する倫理委員会の承認を得て行った。承認番号：20167

	対照群	保湿群	
症例数	45	18	名
平均年齢	57.8	56.2	歳
総線量: 50Gy	6	0	名
総線量: 60Gy	28	15	名
総線量: 66Gy	11	3	名
エネルギー4MV	25	13	名
エネルギー6MV	19	5	名
エネルギー10MV	1	0	名

【結果】保湿剤はヘパリン類似物質ローションを使用。1日2回を基本とし乾燥の状況に応じて回数を増やすことも可能とした。塗擦方法の指導は処方当日または翌日に放射線治療室で行った。症例数・放射線治療に関する情報を表1に示す。保湿剤によるアレルギー反応やマーキング保持への影響から使用中止と判断された症例はなかった。放射線性皮膚炎に関連する症状と出現時期を表2に示す。乾燥出現率は、対照群

91.1%、保湿群72.2% 疼痛出現率は、対照群88.9%、保湿群66.7%であり、保湿群の方が乾燥と疼痛の出現率が低い傾向にあり、特に疼痛の出現は有意に少なかった。症状の出現時期は、乾燥・掻痒感・疼痛共に保湿群の方がやや遅かった。ステロイド処方は、対照群では全体的な皮膚炎悪化や掻痒感等の自覚症状緩和目的で処方されていることが多く、保湿群では、処方されている11名中全体的な悪化や自覚症状緩和のために処方されたのは2名のみで、残りの9名は乳頭・乳輪や鎖骨上リンパ節照射での頸部など部分的な皮膚炎悪化で処方となっていた。終了時の皮膚炎のグレードを表3に示す。

	対照群 n=45	保湿群 n=18	Fisherの 直接確率法	
乾燥	あり(人)	41	13	n.s.
	なし(人)	4	5	
	出現率(%)	91.1	72.2	
	出現時期(回目)	16.6	17.5	
掻痒感	あり(人)	30	12	n.s.
	なし(人)	15	6	
	出現率(%)	66.7	66.7	
	出現時期(回目)	21.4	23.3	
疼痛	あり(人)	40	12	p < 0.05
	なし(人)	5	6	
	出現率(%)	88.9	66.7	
	出現時期(回目)	17.0	18.4	
ステロイド処方率(%)	33.3	61.1		

	対照群	保湿群	
グレード 1	6.6	5.6	%
グレード 1-2	16.4	0.0	%
グレード 2	80.0	61.1	%
グレード 2-3	0.0	33.3	%

保湿群の方が部分的な皮膚炎の悪化で終了時のグレードが高い評価となっている。

【考察】保湿剤使用は、放射線性皮膚炎悪化予防に明らかな影響を認めなかったが、乾燥や疼痛の自覚症状緩和にはつながると考えられた。予防的保湿導入前には保湿剤使用による塗擦時の機械的刺激の影響を懸念していたが、体動による刺激の加わりやすい部分での部分的悪化がほとんどであった。これらのことから、塗擦時の機械的刺激による皮膚炎の悪化や、保湿剤によるマーキング保持への影響もなく、使用継続は可能であると考えられる。一方、保湿群では乾燥、掻痒感や疼痛が出現していないにも関わらず、乳頭・乳輪や頸部などの皮膚炎が悪化して

いる症例もあった。これは活動により容易に摩擦が生じる部位であり、自覚症状が少ない分、摩擦予防への意識が低下した可能性がある。皮膚炎悪化を予防するため、日常生活における摩擦予防指導の強化が必要と考える。

今回は症例数に偏りがあり今後も症例数を増やし、予防的保湿の効果を検証していく必要がある。

【結語】

1. 乳房温存術後の放射線治療での放射線性皮膚炎に対する予防的保湿は、乾燥・疼痛などの自覚症状緩和に効果があると考えられた。
2. 予防的保湿は放射線性皮膚炎悪化予防に直接的な影響は与えない可能性が示唆された。
3. 放射線性皮膚炎悪化予防には、摩擦予防を中心としたセルフケア指導の継続が必要である。

乳腺への放射線治療での 放射線性皮膚炎に対する 予防的保湿の効果

旭川医科大学病院

○平 千亜紀 ・ 松岡 あさみ
小野 美帆 ・ 井上 紗貴

日本放射線看護学会COI開示

筆頭者氏名 平 千亜紀
所属名 旭川医科大学病院

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・
組織および団体等はありません。

背景

- 乳房温存術後の放射線治療は、放射線性皮膚炎の発生リスクが高い。
- 放射線性皮膚炎の悪化により苦痛やQOLの低下につながるため、重症化を防ぐ予防的ケアが重要である。
- 保湿を目的とした外用剤の使用を推奨するエビデンスは少ない。
- A病院では、2021年1月より乳房温存術後の放射線治療を受ける患者の予防的保湿を実施することとなった。

目的

予防的保湿導入後と過去の症例との乾燥や
掻痒感の出現状況を比較することで、
予防的保湿の効果を検討する。

施設の概要

- 病床数：602床
 - 平均在院日数：11.3日（2020年度）
 - 病床稼働率：86.4%（2020年度）
 - 平均外来患者数：1498.4人/日（2020年度）
- 【放射線治療室】
- 治療室：2室 IX・true beam（+密封小線源治療室1室）
 - スタッフ配置：看護師2.5名 診療放射線技師：5名
 - 治療数：555件/年（2020年度）
 - 乳腺への放射線治療患者数：150名/年（2020年度）

研究方法

- 対象：
A病院で乳房温存術後の放射線治療を受けた患者
(寡分割照射を除く)
- 治療開始日
対照群：2019年12月1日～2020年4月30日
保湿群：2021年 1月1日～同4月30日
- 方法：
診療録・看護記録から、保湿群と対照群のデータを抽出し比較する。
 - 調査項目：
年齢・放射線治療に関する情報・放射線性皮膚炎に関する症状

倫理的配慮

本研究は研究者の所属する倫理委員会の承認を得て行った。
承認番号：20167

保湿剤と使用方法

- 保湿剤：ヘパリン類似物質ローション 0.3%
- 使用回数：1日2回 乾燥の状況に応じて調整可
- 塗擦方法の指導：
 - ① 処方当日または翌日に放射線治療室で実施
 - ② 塗りこまずにおさえるようにつける
 - ③ マーキングが消えそうな場合や皮膚に違和感が生じた場合は速やかに使用を中止する

結果 ①：属性と照射情報

	対照群	保湿群
症例数(名)	45	18
平均年齢(歳)	57.8	56.2
総線量:50Gy(名)	6	0
総線量:60Gy(名)	28	15
総線量:66Gy(名)	11	3
エネルギー4MV(名)	25	13
エネルギー6MV(名)	19	5
エネルギー10MV(名)	1	0

結果 ②：症状と出現時期（乾燥）

		対照群 n=45	保湿群 n=18	Fisherの 直接確率法
乾燥	あり(人)	41	13	n.s.
	なし(人)	4	5	
	出現率(%)	91.1	72.2	
	出現時期(回目)	16.6	17.5	

結果 ③：症状と出現時期（搔痒感）

		対照群 n=45	保湿群 n=18	Fisherの 直接確率法
搔痒感	あり(人)	30	12	n.s.
	なし(人)	15	6	
	出現率(%)	66.7	66.7	
	出現時期(回目)	21.4	23.3	

結果 ④：症状と出現時期（疼痛）

		対照群 n=45	保湿群 n=18	Fisherの 直接確率法
疼痛	あり(人)	40	12	P<0.05
	なし(人)	5	6	
	出現率(%)	88.9	66.7	
	出現時期(回目)	17.0	18.4	

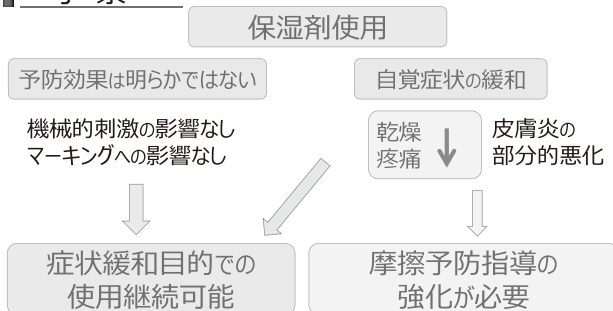
結果 ⑤：ステロイド軟膏

		対照群 n=45	保湿群 n=18
ステロイド 処方	あり(人)	15	11
	なし(人)	30	7
	処方率(%)	33.3	61.1

結果 ⑥：終了時の皮膚炎のグレード

	対照群 n=45	保湿群 n=18
グレード 1(%)	6.6	5.6
グレード 1-2(%)	16.4	0
グレード 2(%)	80.0	61.1
グレード 2-3(%)	0	33.3

考察



結語

1. 乳房温存術後の放射線治療での放射線性皮膚炎に対する予防的保湿は、乾燥・疼痛などの自覚症状緩和に効果があると考えられた。
2. 予防的保湿は、放射線性皮膚炎悪化予防に直接的な影響は与えない可能性が示唆された。
3. 放射線性皮膚炎悪化予防には、摩擦予防を中心としたセルフケア指導の継続が必要である。